

論理国語 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	3年〇組 教室
クラス	3年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	「市民社会」について考える
使用教材	『「である」ことと『する』こと』(丸山 真男) 参考:「舞姫」(森 鴎外)	使用教科書	『精選 論理国語』 三省堂
教材観	本教材は、「である」論理と「する」論理という二つの視点から社会を捉え直す評論文である。生徒が現代社会を客観的に見つめる力や、社会の構造や問題点を分析する思考力を育てることができる。また、語句や内容に難しさはあるが、現代にも通じるテーマであり、生徒にとって学ぶ意義は大きく、評論文の読解を通じて、指示語・接続語・比喩表現などの言語技術も身につけることができる。		
生徒観	読み取ったことを文章として表現することを苦手としている生徒が多い。また、学習したことを他の教科、他の教材にいかすことが苦手であるため、他の教材と関連付けながら、学習効果を高める必要がある。二つの教材を関連付け、表現に着目し、深い読みができるよう授業を行う。		
指導観	本単元では、「である」論理と「する」論理という二つの視点を通して、社会や人間の在り方を多面的に捉える力の育成を目指す。生徒が自らの生活や社会を客観的に見つめ直し、論理的に考察する姿勢を養うことを重視する。そのために、異なる文章を読み比べる授業を展開し、生徒が自らの言語行為を通じて新たな価値観を形成する契機とする。		

1 単元の目標

(1) 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

[知識及び技能] (1) イ

(2) 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] B (1) キ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

2 単元の言語活動

本単元で学んだ観点をもとに関連する文章を読み、それらの内容について理解・解釈した内容を整理し、論理的に説明する。

(関連:[思考力, 判断力, 表現力等] B (2) イ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1)イ)	①設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 (B(1)キ)	①二つの文章を読むことを通し、学習した知識や経験を生かして登場人物の行動の意図を多面的かつ論理的に考察し、他者の助言や多様な視点を取り入れながら、粘り強く考える中で自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全8時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (2時間)	○単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○『舞姫』を読み、登場人物の行動に対する自分の考えを整理し、ワークシートに記入する。 ○『「である」ことと「する」こと』を読み、語句の意味を調べ、漢字練習を通して理解を深める。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
第2次 (5時間)	○「である」論理と「する」論理の特徴を理解し、両者が社会に混在することで生じる矛盾や混乱について考える。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	「記述の確認」
第3次 (1時間)	○学んだ視点をもとに『舞姫』を読み直し、「豊太郎」の行動選択の意図を再考する。 ○複数の文章を比較読解し、共通点を整理しながら読解を深め、そこから生まれる新たな視点や気づきを学ぶ。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○『舞姫』を読み登場人物の行動に対する自分の考えを整理し、ワークシートに記入する。	・豊太郎の行動について記述するとき、なぜそう思うのか根拠を文中からもってくるように意識させる。 ・ペアワークで根拠を示しながら意見交換を行わせる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ワークシート ・記述内容を点検する。
2	○『「である」ことと「する」こと』を読み、語句調べ、漢字練習を行う。	・生徒が自分の生活や経験と関連付けて内容を考察できるよう指示する。 ・難解な語句については辞書や資料を活用し、意味を正確に理解させることで、文章全体の論旨を的確に把握させる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ワークシート ・記述内容を点検する。

3	<p>○第一段落、第二段落を読解する。</p> <p>○物事には「である」論理と「する」論理の二つの図式が存在することを理解する。</p>	<p>・「である」論理と「する」論理を対立的に捉えるのではなく、両者の関連性を意識しながら読解を進めるよう指導する。</p>	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」 ワークシート ・記述内容確認する。</p>
4	<p>○第三段落、第四段落、第五段落を読解する。</p> <p>○「である」論理が根を張っていた時代の考え方、「する」論理に移り変わってきた時代の考え方について理解する。</p>	<p>・現代の価値観や考え方との共通点・相違点を比較しながら理解を深めるよう促す。</p>	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」 ワークシート ・記述内容を確認する。</p>
5	<p>○第六段落、第七段落を読解する。</p> <p>○「する」価値と「である」価値の倒錯について考える。</p>	<p>・「倒錯」という語の意味を再確認し、概念理解を徹底するよう指導する。</p> <p>・問題の焦点が「価値の優劣」ではなく「価値の関係性のズレ」にあることを強調する。</p>	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」 ワークシート ・記述内容を確認する。</p>
6	<p>○第八段落、第九段落を読解する。</p> <p>○価値倒錯を再転倒させるためにはどうすべきかについて理解する。</p>	<p>・「倒錯」から「再転倒」への過程は単なる逆転ではなく、本来の価値秩序を回復することを意味することを理解させる。</p> <p>・生徒が「また逆にするだけ」と誤解しやすいため、「元の正しい関係に戻す」ことを繰り返し確認する。</p>	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」 ワークシート ・記述内容を確認する。</p>
7	<p>○身近な例を挙げ、「である」論理と「する」論理の観点から、400字で作文を書く。</p>	<p>・「である論理＝悪」「する論理＝善」という単純な二項対立を否定し、両者のバランスや本来の関係を考えさせる。</p> <p>・作文指導では、次の観点を確認しながら書かせる</p> <p>① 例が身近であるか</p> <p>② 両方の論理を説明できているか</p> <p>③ 自分の考えが論理的に書けているか</p>	<p>[思考・判断・表現] ① 「記述の確認」 ワークシート ・記述内容を確認する。</p>

<p>8 (本時)</p>	<p>○学習内容に基づいて文学作品を読み、評論の主張が作品の具体的描写・語句・場面で例証されているかを再考する。</p> <p>○『「である」ことと「する」こと』で学んだ視点をを用い、「豊太郎」の行動選択について、時代背景や価値観を根拠に比較検討しながら再考する。</p> <p>○複数の本や資料を比較することで『「である」ことと「する」こと』の理解度の深まりや気づきを考える。</p> <p>○本単元で学習したことが実生活にもかわりが深いことを理解する。</p>	<p>・第1時と同一の課題であることを明示し、学習の継続性を意識させる。</p> <p>・評論文で学習した内容が、日常生活だけでなく文学作品の読解にも影響することを意識させる。</p> <p>・先に学習した論理を単なる知識として扱うのではなく、日常生活や他の文章の読解へ結びつけることを強調する。</p>	<p>[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」 ワークシート</p> <p>・自らの考えを書くことができているか、他者の考えをメモし、考えを見直して深めることができているか分析する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」 ワークシート</p> <p>・学習内容を基に、自分の意見を明確に表現することができているか、また、仲間からのフィードバックを活用して文章を改善することができているか分析する。</p>
-------------------	--	--	--

《本授業における評価の実際》

5 観点学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「B 読むこと」に関する指導については「内容の取扱い (1) イに「80～90 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B 読むこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] ①の「論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている」状況を「語句調べに留まらず、その言葉を活用して文章を組み立てようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況 (B)）と捉え、ワークシートの記述を点検し評価する。

ワークシートに記述できていない状況を C と捉え、机間指導を行ったり、ペアワークで周りの生徒からの助言を受けたりするように促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] ①の『「読むこと」』において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている」状況を、「複数の文章を関連させたり、友人の助言等を踏まえた意見をワークシートに記入できている」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析し評価する。

自身の考えを広げたり深めたりした内容を記入できていない状況を C と捉え、ワークシートにまとめた内容を踏まえて考えるように促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度] ①の「二つの文章を読み、学習したことを生かして自分の考えをまとめる中で、相手に効果的に伝わるように説明や表現を工夫し、他の学習者の助言を参考にしながら、粘り強く自分の学習を調整しようとしている」状況を、「関連する二つの文章を読みながら自身の意見を組み立て、根拠を明確にし、相手に伝えようとしている」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析し評価する。

根拠や論拠を明らかにせず、主観的な意見になっており、努力を要すると判断する状況を C と捉え、ワークシートの内容や本文の内容を踏まえて考えをまとめるように促す。

6 学習指導案(8時間目/全8時間)

本時の目標：ア. 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] B (1) キ

イ. 二つの文章を読み、学習した知識や経験を生かして登場人物の行動の意図を多面的かつ論理的に考察し、他者の助言や多様な視点を取り入れながら、粘り強く自分の学習を調整しようとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

言語活動：本単元で学んだ観点を基に改めて小説を読み直し、登場人物の行動の意図やその背景にある時代性について理解解釈した内容を整理し、論理的に説明する。また、学習した内容を実生活に照らして捉え直し、その気づきを論理的に説明する。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	□本時の目標について確認する。 スライド3	・『「である」ことと「する」こと』で学んだ視点をもとに『舞姫』を読み直し、「豊太郎」の選択の意図を再考することが目標であることを理解する。	・本時の目標について生徒自身に考えさせ、主体的な学習姿勢を促す。 ・第1時の記述と本時の記述を並置させ、感想中心から論証中心への変化を意識させる。
展開① 15分	□本文読解とプリントの記入 スライド4～6	・『「である」ことと「する」こと』で学習したことを手がかりに『舞姫』の豊太郎の生き方・選択を時代背景と結びつけて再検討する。	・『「である」ことと「する」こと』の学習内容が『舞姫』の学習内容と関わることを意識させる。 ・教科書にない情報は、タブレットやスマートフォンで調べるよう促し、主体的な情報収集を支援する。 ・二つの作品を関連付け、共通点・相違点への気づきを促しながら進める。
展開② 25分	□豊太郎の生き方や選択について考える。 スライド6 ◎複数の文章を読み比べたことで得ら	・これまでの学習を踏まえ、本文の根拠と時代背景に基づいて豊太郎の生き方や選択を再考する。 ・複数の文章を読み比べ、『「である」ことと「する」こと』への理解がどのように深ま	・文章の具体的内容よりも、一般化・抽象化した視点で記述できるように助言する。 【目標アに対する評価規準と評価方法】

	<p>れた視点について記述する。</p> <p>◎意見交流</p> <p>□学習したことを基に実生活を捉え直す。</p>	<p>ったか、そこで得た気づきを本文の語句・場面などの根拠とともに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで文章を共有し、相互に意見交換して考えを深める。 ・『「である」ことと「する」こと』を学習した上で、実生活を振り返り、そこで得た気づきを記述する。 	<p>規準：複数の視点を踏まえ、自分の考えを論理的に記述できる。</p> <p>方法：記述の分析 (ワークシート、机間指導)</p> <p>【状況Cに対する手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般化が難しい場合は、『「である」ことと『する』こと』読解の前後で『舞姫』の理解にどのような変化が生じたかを問い、理由や根拠とともにその変化を記述させる。 <p>【目標イに対する評価規準と評価方法】</p> <p>規準：学習内容を基に、自分の意見を明確に表現することができているか、仲間からのフィードバックを活用して文章を改善することができる。</p> <p>方法：記述の点検 (ワークシート、机間指導)</p> <p>【状況Cに対する手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間からの助言を踏まえて文章を見直す際に、「どの視点を取り入れると考えが深まるか」、「どの表現を改めるとより明確になるか」を具体的に問いかけ、改善の方向性を示す。
<p>まとめ 5分</p>	<p>□単元のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『「である」ことと「する」こと』と『舞姫』の関連を踏まえ、学習を通じて得られた新たな視点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の読解が唯一の正解ではないことを明示し、多面的な視点の重要性を指導する。 ・生徒に「自分の考えがどのように変化したか」を言語化させ、学習の深まりを自覚させる。